

カンボジア渡航報告書

石見 和弘 (74 歳)

カンボジアへ行く動機

セカンドハンドの支援で建てられた学校の現状と子供達の環境を把握する事。
セカンドハンドの支援で出来ているホームランドの施設とフォスターペアレント、チルドレンの実態を勉強する事。

現地で記憶に残った事として、2月14日ホームランドを訪問して感じた事は子供達が非常に明るく元気で人懐こい事でした。昼食で同席した時も又写真を撮ろうとした時も、他人に接する機会が少ないのか、教育方針なのでしょう。

又三原さんのフォスターチルドレンとも会い言葉を交わす事もできました。彼女は大学へ進学するであろうとの事でした。2月15日小学校の落成式に出席して感じたことは子供達の体の発育はかなり良いと思いました。

又地元関係者の挨拶の言葉の中でこの学校を次世代も又その次の世代迄も使用出来る様

地元の皆さんで協力して大事にしてほしいとの言葉、それから親御さんには子供達を必ず学校に通わせてください、そして子供達、親御さん達全員にだと思いますがドラッグには絶対に手を付けないでくださいとの事でした。



次に SVA のスタッフ 3 人と夕食を共にしながら事前打ち合わせの時に 1 人の女性スタッフが声を大にして言っていました、この地域で学校を建てたいのですと、以上が現地の感想です。

帰国してから私は自身カンボジアについての知識が殆ど無い為、カンボジアの過去の歴史についてはネットで、又ホームランドの経緯については頂いた資料の中から簡単に記して見たいと思います。ベトナム戦争が北ベトナムの勝利に終わり 1975 年プノンペンがポルポト率いるクメールルージュに奪還されてからカンボジアの地獄の始まりと記されています。ポルポトの時代が 1979 年迄続きましたがその間に 170 から 200 万人もが殺害されたと言われています。そしてもっと悲しいのは教師の 75%、初等、中等教育者の 67%、高等教育者の 80%の尊い命が殺害されたと言うことです(1979 カンボジア政府の統計)。又沢山の図書も焼却されました。今カンボジアで最優先しなければならないのは貧困から脱出する為には教育が大切である事、と子供達が成長した時に働く処がないのではと痛感します。スバリエンに 1 年間生活した人のブログでは経済的に貧しいカンボジアで子供が沢山いるのはとの質問に子供が沢山いれば家庭が明るくなって楽しいのと子供が大きくなれば家庭を助けてくれるという返事が

返ってきましたとの記事を読み複雑な気持ちになりました。

ホームランドについては2月14日に訪問した時 Mao Lang EDH より頂いた資料による Ms. Mao Lang が1996年国際カトリック移住委員会で(ICMC)で働いた時に ICMC が資金不足で閉鎖してからは自分で資金を集めながら始めた様です。1、目的は子供達に適した環境で子供達が十分に発達する機会を提供する事。2、使命はカンボジアに住む脆弱な子供達、その家族の生活と幸福の基準を向上させる為可能な限り支援する事。3、将来の計画は脆弱な子供と家族のコミュニティの基盤ケアを強化し所得創出と育児スキルの向上、そして高等学校を卒業する生徒達を支援する奨学金を得る事。最後に Ms. Mao Lang から直接聞いた説明の中で、ここで成長していても18歳を過ぎて親元から生活する様になると私達の眼の届かない環境で生活しますので不安な事も有ります、と心配そうに話して下さったのが印象に残っています。

渡航報告は以上です。そして今の私がセカンドハンドに協力できる事は何かと考えてみますとフォスターペアレントに参加する事は出来ると考えています。

そしてこの度のカンボジア視察では三木理事長様大変お世話になりました。